

B. 円滑な学位授与の促進**②厳格な成績基準と評価基準の設定や学位授与プロセスの明確化****●東京工業大学 生命理工学研究科生物プロセス専攻****「国際的な理工系バイオリーダーの育成」の事例 <理工農系>****具体的に何を実施したのか**

修士課程学生の論文研究を組織全体で指導することを目的として、修士課程1年次の最初の4カ月間で考えた論文研究の計画書を作成させ、その計画書を少なくとも5名の指導教員以外の専攻所属教員により評価する仕組みと、1年次の終わりに、研究計画やその進捗状況を報告させるための中間報告会を設け、複数の専攻所属教員や他の専攻所属教員に審査してもらう仕組みを構築した。

実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

- ・計画書は学生の計画文章作成能力の向上等も教育目的としていることから、提出に際して指導教員は研究計画の議論には参加するが、計画書作成については一切関与しないようにしたこと。
- ・他の教員の評価結果を、指導教員を通して学生に渡し、その際にその内容について、指導教員と学生で議論することにしたこと。
- ・審査教員は、学生の専門に近い教員と、そうでない教員を少なくとも1名ずつは選ぶようにして、専門的かつ一般的な議論が行えるように配慮した。

どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

複数の教員が学生の論文研究について数回助言する機会を設けることで、学生の研究に対する視野が広がり、また学生が複数回自分の考えを他人に伝えるという訓練にもなり、大変有意義な取組みとなった。学生からの感想のひとつを以下に示す。

「担当教員ではなく、他の先生方に自分の考えを伝えるという機会を得、自分の研究の魅力伝えることや、実験計画の重要性、化学界で用いる言語など多くのことを学べたと思う。」